

食品中の残留農薬調査 (1998 年度)

山之内公子・川口治彦

Pesticide Residues in Foods (1998)

Kimiko YAMANOUCHI and Haruhiko KAWAGUCHI

Key words: pesticide residues, foods

はじめに

平成 10 年度に実施した食品中の残留農薬調査結果について報告する。

調査方法

1 試料

・長崎県産農産物：7 種 25 検体
ばれいしょ, トマト, なす, きゅうり, ほうれん草, みかん, 玄米

2 検査項目

表 1 に示す農薬について調査をおこなった。

3 検査方法

図 1 に示す方法でおこなった。¹⁾

GC による測定は, 表 2 に示す条件によりおこなった。

検査結果

すべて, 食品衛生法の基準を超えたものはなかったが, なすからフェノカルブが 1.7ppm 検出され, 環境庁の登録保留基準 (0.5ppm) を超えていた。

参考文献

1) 本村秀章, 他: 長崎県衛生公害研究所報, 43, 33 ~ 37, (1997)

表 1. 検査対象農薬

有機リン系農薬 (FPD-GC) : 38 種

ジクロルホス, ジメトエト, ダイアジノン, IBP, クロルピリホスメチル, フェントロチオン, クロルピリホス, フェントエト, メチダチオン
プロチホス, イソキサチオン, エチオン, EPN, ホサロン, メタクリホス, エトプロホス, サリチオン, テルブホス, エトリムホス, ホルモチオン
ピリミホスメチル, マラソン, シメチルピホス, キナルホス, プロパホス, テトラクロロピホス, プタミホス, プロフェノホス, トリアゾホス
エトイホス, ピリダフェンチオン, ナレド, シアノホス, シクロフェンチオン, フェンチオン, クロルフェンピホス, フェンスルホチオン
シアノフェホス

有機窒素系農薬 (FTD-GC) : 38 種

イソプロカルブ, フェノカルブ, クロプロプロアム, ピロキノ, エスプロカルブ, ペンテイメタリン, プレチラクロール, フェンプロハトリン
レナシル, ピリダベン, ビンクロゾリン, ジエトフェンカルブ, トリアジメホス, トリアジメノール, フルトラニル, ミクロブタニル, メプロニル
メフェナセト, ビテルタノール, ベンダイオカルブ, メチオカルブ, プロピコナゾール, キシリカルブ, トリフルラリン, シマジン, アラクロール
パクロブトラゾール, フルシラゾール, テニコロール, テアフェンピラト, プロホキサ, プロメトリン, メトラクロール, シメタメトリン
ジメピペレート, フプロフェジソン, オキサジキシル, フェナリモル

有機塩素系農薬 (ECD-GC) : 29 種

BHC, DDT, アルドリノ, エンドリン, シクロフルアニト, シコホル, テイルトリン, シハロトリノ, シフルトリノ, シヘルメトリン
テフルトリノ, テルタメトリン, フェンハレート, フルシトリン, フルハリネート, ヘルメトリン, クロルフェンソ, エントスルファン
テラジホ, ヘクタクロル, ヘクタクロルエホキサイト, プロシミト, プロピサミト, クロルフェネート, クロルプロピレート
プロモプロピレート, シクロペンゾフェノ, ハルフェンロックス, トラロメトリン

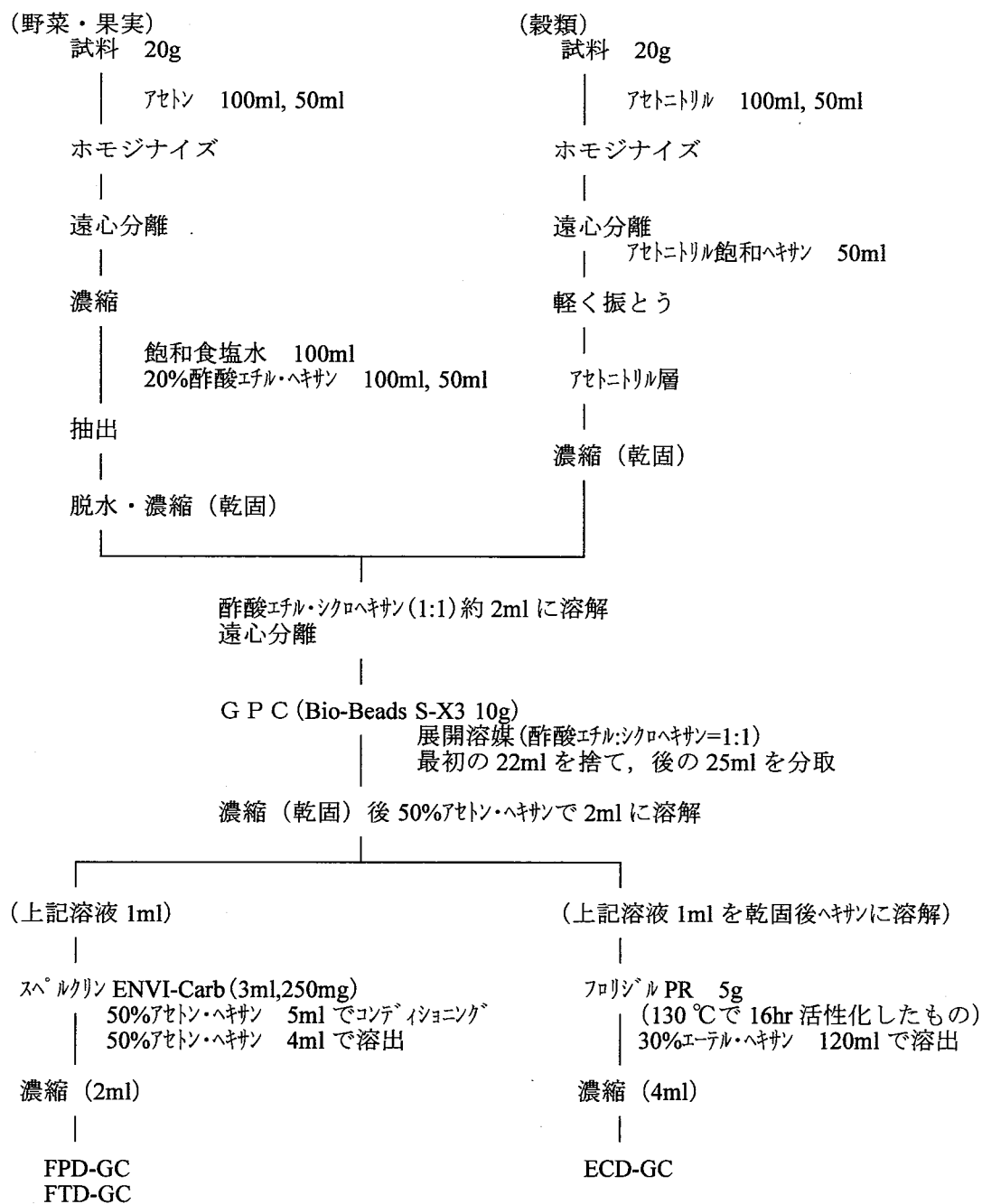


図1. 食品中の残留農薬分析法

表2. 各GCにおける測定条件

(FPD-GC)	
カラム:DB-5 (φ 0.32mm × 30m)	
カラム温度:100℃ (2min) → 20℃/min → 190℃ (10min) → 3℃/min → 220℃ (0min) → 20℃/min → 280℃ (10min)	
注入口温度:200℃	
検出器温度:280℃	
(FTD-GC)	
カラム:DB-5 (φ 0.32mm × 30m)	
カラム温度:100℃ (2min) → 20℃/min → 190℃ (5min) → 5℃/min → 220℃ (0min) → 20℃/min → 280℃ (10min)	
注入口温度:200℃	
検出器温度:280℃	
(ECD-GC)	
カラム:OV-17 (φ 3mm × 1.5m, 80 ~ 100メッシュ)	
カラム温度:240℃ (25min) → 10℃/min → 280℃ (10min)	
注入口温度:200℃	
検出器温度:290℃	